

## 第5学年2組 体育科学習指導案

### 1 跳び箱運動

### 2 運動の特性（機能的特性）

跳び箱運動は、少し練習すればできそうな技に挑戦することや、できる技をより大きな動作や安定した動作で跳んだりすることが楽しい運動である。

### 3 児童の実態

～省略～

### 4 実態の考察

#### （1）運動の楽しさの体験状況について

本学級の児童は、体育学習を好きだと感じている児童が多い。体を動かすことに楽しさを感じている児童が多く、マット運動や水泳学習に熱心に取り組んでいる様子が見られる。しかし、体育学習を嫌いだと感じている児童も4人おり、体を動かすことに苦手意識をもっていたり、けがをすることに不安を感じていたりしている。また、多くの児童が「技を成功させると嬉しいから」「楽しいから」「得意だから」という理由で跳び箱運動を好きだと回答している。跳び箱運動が楽しいときは「技を成功させたとき」「高い段を跳べたとき」「できる技で跳んでいるとき」と回答している児童が多く、できる技で跳ぶことに楽しさを感じている。だが、技の出来栄えについて回答した児童が全くいなかった。これは、技を大きくしたり、安定させたりする楽しさを体験したことが少ないことが要因であると考えられる。一方で、跳び箱運動嫌いだと感じている児童もいる。理由を見ると、「跳べないから」「苦手だから」と回答している。また、跳び箱運動を楽しめないときについての回答が多かったのが、「失敗をするとき」「挑戦してもうまくいかないとき」「失敗したとき」という内容であり、技を成功させる経験に乏しい児童がいることがうかがえる。

#### （2）運動の楽しさを求める学び方の習得状況

本学級の児童の多くは「自分でめあてをもつことができる」「めあてを意識して学習している」と回答している。しかし4月実践のマット運動の学習の様子では、自己や仲間の課題を意識せず学習に臨んでいる児童や、課題解決の練習の方法が明確になっていない児童が多かった。そういった児童には、練習方法を示した資料を見せ、課題解決の見通しをもって活動できるように促してきた。「自分に合った練習方法を考えることができますか」について、12人が「資料があればできる」または「自信がない」と回答しているため、課題解決の見通しをもてるように資料を用意する必要があると考える。また「めあてを達成するためにどうしますか」という問いに対して「ひたすら練習に取り組む」という回答が一番多く「仲間に見てもらおう」という回答は6人とどまっている。マット運動の学習で教え合う時間を取り入れたものの、自分の課題について聞いたり、仲間にアドバイスしたりする児童が少なかった。「気付いたことや考えたことを仲間に伝えることができますか」では、学級の約半数の児童が「仲のよい仲間にならできる」「自信がない」と答えていることから、教え合うことによって、自己や仲間の課題を解決していく力が高まっていないと考えられる。「跳び箱運動でどのようなことに注意したらよいと思いますか」では、「怪我をしないように安全に気を付ける」ことを強く意識していることわかった。また、「怪我の無いように場の安全に気を付けて活動することができますか」でも、全員が「できる」と回答しており、安全に活動しようとする意識は高い。「跳び箱運動の学習でどんなことができるようになりたいですか」の問いに対しては、「首はね跳び」「台上前転」「かか

え込み跳び」「高い段数での開脚飛び」など、新たな技を習得したいという思いや、より大きな動作で跳びたいと感じている児童が多くいることがわかった。「跳び箱運動の学習で、技を成功させるためにどのようなことに気を付けますか」では、「それぞれの技のもつポイントを意識する」と回答した児童が一番多かったが、どの技にも共通している「踏み切り・着手・着地」について回答した児童は少なく、知識はあるけれども技の出来栄への意識が低いことが明らかとなった。「学習の進め方や約束を守り、仲間と助け合うことができますか」「仲間のよい行いを褒めたり、拍手したりするなど、仲間を認めることはできますか」の問いでは、多くの児童が「できる」と回答しており、学級の仲間と楽しく体育学習を進めたいという思いが強いことがわかった。

### (3) 運動の楽しさを味わうための技能の習得状況について

実態調査から中学年の指導内容である「開脚跳び」は全員が跳ぶことができ、「台上前転」は23人が跳ぶことができている。また発展技である「かかえ込み跳び」は学級の半数が跳ぶことができ、「膝伸台上前転」は10人が跳ぶことができている。しかし、「開脚跳び」でしか跳び越すことのできない児童が7名おり、技能差が大きいことが明らかとなった。また、中学年の指導内容に例示されている「首はね跳び」については、取り扱っていない学級もあり、行い方を知らない児童もいた。

また、どの技にも共通している「踏み切り」「着手」「着地」の技能を見てみると、「着地」で静止することの意識が低く、前に倒れてしまう児童が15名おり、学級の半数を占めていることがわかった。「踏み切り」では、両足で踏み切れる児童が多いものの、力強く踏切ることができ、腰を十分に引き上げられる児童は5人と少ない。そのため、繰り返し系の技では腰が上がらないため、途中で跳び箱に引っかかってしまったり、回転系の技では回転の勢いが弱く頭抜けなかつたりしてしまう児童がいた。「着手」では、両手で着手することは全員ができているが、手を突き放して上体を起こすことや、逆さまの状態で体を支えることができている児童がいた。このように、様々な技で跳ぶことのできる児童は多いが、安定して跳ぶことを意識している児童がとても少ないことが明らかとなった。

## 5 研究の視点と学習の手立て

### (1) 市教研体育部の研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

### (2) 研究の視点と手立て

#### 視点1 課題を見付け解決できる学習過程と指導内容の明確化

<手立て>

#### ○ 児童の実態に合わせた学習過程の工夫

本学級の児童は、体育学習を好きと感じている児童が多く、意欲的に活動に取り組むことができる。実態調査では、開脚跳び、台上前転、かかえ込み跳びを跳ぶことを楽しむ児童が多く、概ね技能は高いといえる。一方で、首はね跳びは学習経験に差があり、技の行い方を理解している児童は半分程度である。また、多くの児童は新しい技を習得して運動を楽しみたいと思っており、跳び箱に苦手意識がある児童も技を習得して跳び箱運動を楽しみたいと願っている。しかし、技の出来栄に対する意識が低く、より安定した動作や大きな動作で跳ぶことの楽しさを味わうことができていない。こうした実態を踏まえ、本単元では、児童の新しい技に挑戦したいという思いを大切にしながら、出来栄をよくする楽しさも十分に味わえる学習過程にしていきたい。

まず、オリエンテーションでは、学習の進め方や約束、場づくり等を確認するとともに、主運動につながる運動を丁寧に取り扱う中で、本単元において技を「安定させること」、「大きくさせること」について確認する。

「安定させること」 …マットの上で膝を曲げて柔らかく着地し、2秒静止すること。  
「大きくさせること」 …力強く踏切り、腰を肩よりも高く引き上げること。

以上のようにのばしたい力を明確にし、単元を通して意識的に活動を行っていくことによって、児童に技の出来栄を高めしていくことの楽しさをより味わわせられるものとする。本単元では、主運動につながる運動において「うさぎ跳び」「腰上げ」「跳び乗りから跳び下り」の3つを取り上げ、それぞれの行い方と意識すべきポイントを指導し、毎時間取り組むことで、どの技にも共通する「踏み切り」「着手」「着地」といった基本的な感覚を高め、出来栄をよくする意識を高めていきたい。

自分に合った課題や解決方法を選ぶことに自信がない児童が多いことから、2時間目に「かかえ込み跳び」「台上前転」「伸膝台上前転」の技のポイントと課題の解決方法を確認する。技のポイントを映像資料や教師の試技を見せることにより、理想の動きを児童が具体的にイメージできるようにしていきたい。そして、自分の能力に合った場で練習ができるように場の選び方や練習の行い方について指導したい。このように、技のポイントと課題の解決方法を適切に理解し、新たな技に挑戦する時間を十分に取ることによって、児童の基本的な技能の定着を図るとともに主体的に課題解決する力を養えると考えられる。

3時間目は、新たな技を習得し、その技を練習したいと思う児童が増えることが予想されるため、学習活動①「今できる技をより安定させて跳んだり大きくして跳んだりして楽しむ」時間を取り入れる。ここでは、それまでに挑戦して身に付けた技の出来栄を、さらに磨く楽しさを味わわせたい。なお、学習の後半には、首はね跳びの技のポイントと課題の解決方法の確認していく。中学年で取り扱っていない児童も多いため、そこで、はね動作を中心に丁寧に指導を行い、首はね跳びの習得につなげていきたい。

4～7時間目からは、学習活動①「今できる技をより安定させて跳んだり大きくして跳んだりして楽しむ」と学習活動②「もう少しでできそうな技に挑戦する」のスパイラル学習を展開していく。児童がめあてをもち学習を進める中で、跳び箱運動の機能的特性を味わえるようにしたい。以上のように児童の実態と自分の技の出来栄を高めることを大切に学習過程を組むことによって、常に意欲をもち、主体的に課題解決学習に取り組むことができるようになることを考える。

#### ○ 児童自ら課題を見付け解決できる学習資料の工夫

本学級の児童は、取り組みたい技を選ぶことができるが、技のポイントや自分の課題に応じた練習を選ぶことができない児童が多い。4月実施のマット運動の学習では、練習の必要性や場の意図を理解せず闇雲に試しの場で練習する様子が見られた。そこで、本学習では、自分の課題を見付け、練習の場を選択する手助けとなる学習資料を用意する。その資料は児童に配付したり、掲示したりして学習中だけでなく朝の会や休み時間にいつでも確認ができるようにしていく。そうすることで、児童が自らの力で課題解決に取り組むとともに、仲間と具体的なアドバイスをし合いながら、主体的に跳び箱運動の学習を進めることができるだろう。

【学習資料の例】

かかえ込み跳び 課題解決カード

**【技のポイント】**

- ☆**踏み切り**  
両足で力強く踏み切ろう  
◎こしが肩の高さ
- ☆**着手**  
手でおしおろしを返そう
- 両ひざを胸までひきつけよう
- ☆**着地**  
顔をあげて  
◎ピタッと着地

**【練習方法】**

○力強く踏み切れない  
【低いびくろやステージへのびくろの場】  
①ひざで着地  
②足裏で着地  
③着手よりも前で着地  
☆できることからやってみよう！  
・着手よりも前で着地できるようにしよう。  
・ひざを胸にすばやく引き付けよう。

○胸の引き付けが弱い・手のおしおろしが弱い  
【段差連結とびの場】  
最初は段差を小さく膝が高い位置から練習しよう。  
・踏み切ったろひざを胸にすばやく引き付けよう。  
・手で突き放して上体を起こそう。(顔をあげよう)

○手のおしおろしが写り・着地がわらい  
【セーフティマットの場】  
着地場所が柔らかいから倒れても安心。  
・ひざを胸に引き付けよう。  
・手で突き放して上体を起こそう。(顔をあげよう)

技のポイントを明記。自分の課題を見付け、めあてを立てやすくなるようにする。

課題に応じた練習方法を記載。自分の動きに合わせて選択できるようにし、適切な方法を選びやすくなる。

それぞれの練習方法で意識することを明記。仲間の動きと見比べ、具体的なアドバイスをしやすくなる。

視点2 さらに運動が楽しくなる関わり合いの工夫

<手立て>

○児童の学び合いを活発化する学習形態の工夫

本単元では、児童同士で学び合うことによって、新たな技の習得や技の出来栄を高めたいと考える。闇雲に友達と関わるのではなく、それぞれの学習活動には、意図があることを子どもと共有し、学習を効果的に進めていきたい。

時	形態	仲間を視るポイント	教える方法
主運動につながる運動	ペア (単元を通して同じ仲間)	○踏み切り…腰が肩の高さまで上げられているのか。 ○着手…手のひらを「パー」にできているか。 ○着地…膝を曲げて柔らかく着地して2秒止まっているか。	○腰を上げる基礎手を示す。 ○跳び下りでは「ピタっ12」と声をかける。
2時間目 3時間目後半	一斉指導 ↓ 課題別グループ	○練習の行い方…正しい練習方法を行っているか。 ○技(場)ごとのポイント…動きのポイントを意識しているか。 ○安全…仲間が活動する場が安全か。	○学習資料のポイントと仲間の動きを見比べ、出来栄を伝える。
学習活動①	同じ場の仲間	○安定…膝を曲げて柔らかく着地して2秒止まっているか。(着地) ○大きさ…腰が肩の高さまで上げられているのか。(踏み切り)	○役割分担をして「安定」「大きさ」についての出来栄を伝える。
学習活動②	課題能力別グループ	○技(場)ごとのポイント…動きのポイントを意識しているか	○学習資料のポイントと仲間の動きを見比べ、出来栄を伝える。

仲間の動きを見るポイントや教え合い方を確認していくことで、学級全体で技能を高めるとともに、友達と伝え合う力を育てることができるだろう。

## 6 単元の目標

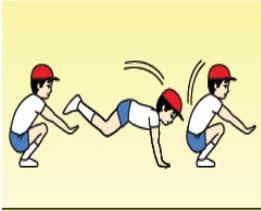
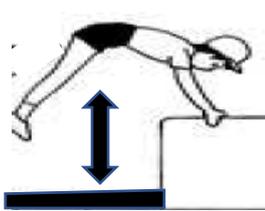
- 跳び箱運動では、その行い方を理解するとともに、自己の能力に適した切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりすることができるようにする。 (知識及び技能)
- 自己の能力に適した課題の解決の仕方を考えるとともに、考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (思考力、判断力、表現力等)
- 跳び箱運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

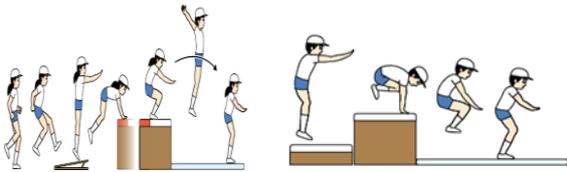
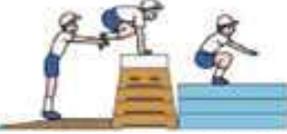
## 7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①跳び箱運動の行い方について、言ったり書いたりしている。 ②自己の能力に適した切り返し系や回転系の技で安定して跳ぶことができる。	①自己の能力に適した課題の解決の仕方を選択している。 ②仲間の動きを観察し、良かったところを他者に伝えている。	①運動に積極的に取り組もうとしている。 ②約束を守り助け合って運動しようとしている。 ③仲間の考えや取組を認めようとしている。 ④場や用具の安全に気を配ることができる。

## 8 指導と評価の計画

	1	2	3	4	5	6(本時)	7
学習のねらい	学習の見通しをもつ大きく・安定する動作の基準を知る。	かかえ込み跳び・台上前転 伸膝台上前転のポイントや課題の解決方法を知る。	自分のできる技の出来栄を高める。 はね跳びのポイントや課題解決の方法を知る		自分の課題に応じた場を選んで練習する。		
0	オリエンテーション ・学習の進め方と約束の確認 ・技の紹介 ・場の作り方 ・準備運動	準備運動・主運動につながる運動		学習活動① できる技をより安定させたり、大きくしたりして楽しむ。			
4 5	主運動につながる運動 →腰を高く(大きく) →膝を柔らかく曲げて、2秒止まる(安定) ・持ち技調べ	かかえ込み跳び ポイントと課題解決の方法を知る。 台上前転 伸膝台上前転 ポイントと課題解決の方法を知る。	はね跳び ポイントと課題解決の方法を知る。	学習活動② もう少し練習すればできそうな技に挑戦して楽しむ。 まとめ			
知・技		① (観察・カード)		② (観察)			② (観察)
思・判・表			① (観察・カード)	② (観察)	① (観察・カード)	② (観察)	
態度	④ (観察)	② (観察)	① (観察)				③ (観察)

	学習内容と活動	教師の指導・支援○ 評価◇
はじめ (第1時)	<p>【オリエンテーション】</p> <p>1 学習のねらいを理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <p>2 技を「安定させる」「大きくする」ことについて知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                     技を安定させるとは…                      「マットの上に着地して2秒静止できる」                      技を大きくするとは…                      「腰を肩の高さまで上げること」                 </div> <p>3 学習を進める上での約束・マナーについて知る。</p>	<p>○学習カードを見せながら説明することで、学習のねらいや進め方が理解できるようにする。</p> <p>○「安定させる」ことが「マットの上に着地して2秒静止できる」ことだと確認する。</p> <p>○「大きくする」ことが、「腰を肩の高さまで上げること」だと確認する。</p> <p>○教師が例示し、動きのイメージをもたせるようにする。</p> <p>○安全に運動するための約束を確認する。</p>
はじめ (第1時)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                     &lt;約束&gt; ・跳ぶ前後には手と声で合図をします。・移動するときには、周りをよく見ます。                      &lt;マナー&gt; ・友達と協力し、アドバイスし合いながら学習をします。・準備や片づけは全員で協力して行います。                 </div> <p>4 取り組む技について知る。</p> <p>5 場や用具の準備の仕方について理解し、場づくりを行う。</p> <p>6 準備体操、ストレッチをする。</p> <p>7 主運動につながる運動の行い方やポイントを理解する。</p> <p>・うさぎ跳び</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p>・腰上げ</p> <p>・跳び乗りから跳び下り</p> 	<p>○映像資料や学習資料を見て、動きの具体的なイメージをもてるようにする。</p> <p>○怪我が無く安全に学習に取り組めるように跳び箱の持ち方や移動の仕方を確認する。</p> <p>○場や用具の準備の仕方について役割分担を行い、次回からスムーズに準備ができるようにする。</p> <p>◇場や用具の安全に気を配ることができる。</p> <p style="text-align: right;"><b>【態度④】</b></p> <p>○跳び箱運動でよく使う部分（足、腰、肩、首、手首）を意識して、体を伸ばすよう助言する。</p> <p>○うさぎ跳びでは、両手で体をしっかりと支えること、腕を突き放し、体を起こすように意識するように声をかける。</p> <p>○腰上げは、足のつま先で力強く踏み切ること、肩の位置まで腰が上がるようにすることを意識するように声をかける。</p> <p>○腰上げが技を「大きくする」ことにつながっていることを確認し、意識的に取り組めるようにする。</p> <p>○跳び乗りから跳び下りをするときには、助走から両足で踏み切り跳び乗ること、跳び箱の端から跳び降り、膝を使って柔らかく着地することを意識するように声をかける。</p>

	<p>8 持ち技調べをする。</p> <p>9 整理運動をして、後片付けをする。</p>	<p>○跳び下りが、技を「安定させる」ことにつながっていることを確認し、意識的に取り組めるようにする。</p> <p>○ペアで活動を行い、ポイントを見合いアドバイスし合うように促す。</p> <p>○学習カードのできた技の段数に○印を記入させる。</p> <p>○オリエンテーションやつながる運動で確認をした技を「安定させる」「大きくさせる」動作で跳んでいる児童を称賛することで、学級全体で意識が高まるようにする。</p> <p>○けががないか確認し、整理運動を行う。</p> <p>○協力して後片付けをするように声をかける。</p>
<p>なか① (第2時)</p>	<p>1 学習の場づくりをする。</p> <p>2 準備運動・ストレッチをする。</p> <p>3 主運動につながる運動を行う。 ・うさぎ跳び ・腰上げ ・跳び乗り→跳び下り</p> <p>4 学習前半のめあてを確認する。</p>	<p>○役割分担をもとに、協力して準備するように促す。</p> <p>○跳び箱運動でよく使う部分を意識して行うように促す。</p> <p>○主運動につながる運動では、動きのポイントを意識して活動するように促す。</p>
<p>「かかえ込み跳び」の技のポイントや課題の解決方法を知ろう。</p>		
<p>なか① (第2時)</p>	<p>5 「かかえ込み跳び」の技のポイントを確認する。</p> <p>6 易しい場での練習方法を確認する</p> <p>【かかえ込み跳び】</p> <p>低い跳び箱に跳び乗り      段差連結跳び箱</p>  <p>セーフティマットを使って</p>  <p>7 自分の課題に合った場で練習する。</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> <p>【学習形態の工夫】</p> <p>〈学習形態〉 課題別グループ</p> <p>〈学び合いの視点〉</p> <p>練習の行い方…正しい練習方法を行っているか。</p> <p>技(場)ごとのポイント…動きのポイントを意識しているか。</p> <p>安全…仲間が活動する場が安全か。</p> <p>〈教える方法〉</p> <p>学習資料のポイントと仲間の動きを見比べ、出来栄を伝える。</p> </div>	<p>○技のポイントを理解することができるようにするため、教師の見本と学習資料を照らし合わせながら確認するように声をかける。</p> <p>○易しい場での動きのイメージをつかめるように、教師が手本を見せる。</p> <p>○低い跳び箱に跳び乗りの場では、足が着手の位置よりも前に出すことや膝を胸に素早く引き付けることを意識するように助言する。</p> <p>○段差連結跳び箱の場では、膝を胸に素早く引き付けることや手で跳び箱を強く突き放すことを意識するように助言する。</p> <p>○セーフティマットの場では、膝を胸に素早く引き付けることや手で突き放し顔を上げて着地することを意識するように助言する。</p> <p>○同じ課題をもつ仲間3～4人ですばやくグループを作り、練習の場に行くように指示する。</p> <p>○学習資料のポイントをもとにして、仲間の出来栄を伝え合うように声をかける。</p> <p>○自分の力に合った適切な場を選ぶことのできない児童がいたときには、教師と資料を確認し、適切な場を見つけられるようにする。</p> <p>○試しの場での挑戦を不安に感じている児童がいるときには、</p>

セーフティマットを用意したり、補助したりし安心して挑戦できるようにする。

- かかえ込み跳びがすでにできる児童には、試しの場でかかえ込み跳びを「安定した」「大きくした」動作で跳べるように挑戦するように声をかける。

8 学習後半のめあてを確認する。

「台上前転」「伸膝台上前転」の技のポイントや課題の解決方法を知ろう。

9 「台上前転」「伸膝台上前転」の技のポイントを  
確認する。

10 易しい場での練習方法を確認する。

【台上前転】

水深調節台で前転



低い跳び箱で台上前転の場



段差連結跳び箱で台上前転

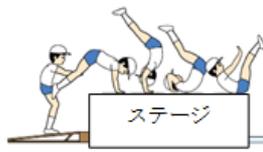


【伸膝台上前転】

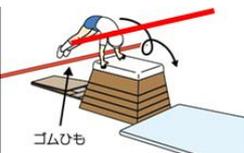
試しの場



ステージ上への前転の場



ゴムひもの場



- 技のポイントを理解することができるようにするため、教師の見本と学習資料を照らし合わせて確認するように声をかける。

- 易しい場での動きのイメージをつかめるように、教師が手本を見せる。

- 水深調節台や、低い跳び箱での前転は、跳び箱に後頭部から着くこと、体を丸めることを意識するように助言する。

- 段差連結跳び箱で台上前転では、腰を高く上げることや跳び箱に後頭部から着くことを意識するように助言する。

- 試しの場で、スピードをコントロールし、安定した台上前転をすることを意識するように助言する。

- ステージ上への前転の場で、力強く踏み切り、腰を高く上げることや、膝を伸ばしたまま勢いよく前転することを意識するように助言する。

- ゴムひもの場では、ゴムひもを目印にして、腰を高く上げたり、着地の直前まで膝を伸ばしたりすることを意識するように助言する。

- 同じ課題をもつ仲間3～4人ですばやくグループを作り、練習の場に行くように指示する。

- 学習資料のポイントをもとにして、仲間の出来栄を伝え合うように指導する。

- 自分の力に合った適切な場を選ぶことのできていない児童がいたときには、教師と資料を確認し、適切な場を見付けられるようにする。

<p>中① (第2時)</p>	<p>11 自分の課題に合った場で練習する。</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【学習形態の工夫】</b>          &lt;学習形態&gt; 課題別グループ          &lt;学び合いの視点&gt;  <b>練習の行い方</b>…正しい練習方法を行っているか。  <b>技(場)ごとのポイント</b>…動きのポイントを意識しているか。  <b>安全</b>…仲間が活動する場が安全か。          &lt;教える方法&gt;          学習資料のポイントと仲間の動きを見比べ、出来栄を伝える。</p> </div> <p>12 学習のまとめをする。</p> <p>13 整理運動をして後片付けをする。</p>	<p>○試しの場での挑戦を不安に感じている児童がいるときには、補助に入ったり、横にマットを敷いたりして安心して挑戦できるようにする。</p> <p>○伸膝台上前転ができる児童には、試しの場で伸膝台上前転を「安定した」「大きくした」動作で跳べるように挑戦するように声をかける。</p> <p>◇約束を守り助け合って運動しようとしている。</p> <p style="text-align: right;"><b>【態度②】</b></p> <p>○見付けたコツを全体で共有する。</p> <p>○他の児童の参考になるように、よい動きをしていた児童を取り上げ、紹介をする。</p> <p>○学習カードに振り返りと次回の目標を書くように声をかける。</p> <p>◇跳び箱運動の行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p style="text-align: right;"><b>【知・技①】</b></p> <p>○けががなかったか確認し、整理運動をする。</p> <p>○協力して後片付けをするように声をかける。</p>
<p>中② (第3時)</p>	<p>1 学習の場づくりをする。</p> <p>2 準備運動・ストレッチをする。</p> <p>3 主運動につながる運動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うさぎ跳び</li> <li>・腰上げ</li> <li>・跳び乗り→跳び降り</li> </ul> <p>4 学習前半のめあてを確認する。</p>	<p>○役割分担のもとに、協力して準備するように促す。</p> <p>○跳び箱運動でよく使う部分を意識して行うように促す。</p> <p>○主運動につながる運動では、動きのポイントを意識して活動するように促す。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>学習活動① できる技を安定させたり、大きくさせたりして楽しもう。</b></p> </div> <p>&lt;予想されるめあての例&gt;</p> <p>○開脚跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・膝を曲げて、柔らかく着地ができるようにしよう。</li> <li>・力強く踏切って、腰を肩の高さまで上げよう。</li> </ul> <p>○かかえ込み跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・力強く踏み切って、膝を胸に引き付けることを意識して跳ぼう。</li> <li>・着手で突き放して、上体を起こせるようにしよう。</li> </ul> <p>○台上前転・膝伸台上前転</p>	<p>○同じ場で集まった仲間との学び合いの仕方について確認する。</p> <p>○観察者に対して、見るところ(視点)を意識して、友達の動きを観察しアドバイスするように声をかける。</p> <p>○観察者がアドバイスをした後、場の安全を確認してから次跳ぶ人に合図を出すことを確認する。</p> <p>○跳ぶ人が視点以外の動きを見てもらいたいときには、観察者に見て欲しい部分を伝えてから跳</p>

- ・力強く踏み切って、腰を高く上げよう。
- ・膝を伸ばした状態で、まっすぐ回れるようにしよう。
- ・膝を曲げて、柔らかく着地ができるようにしよう。

【学び合いの流れ】



〈役割〉

①跳ぶ人→②安定を見る人→③大きさを見る人

5 学習後半のめあてを確認する。

「首はね跳び」の技のポイントや課題の解決方法を知ろう。

6 「首はね跳び」の技のポイントを確認する。

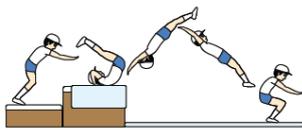
7 易しい場での練習方法を知る。

【首はね跳び】

- ・3人組での首はね跳びの場
- ・ステージ上の首はね跳びの場



・段差連結はね跳びの場



8 自分の課題に合った場で練習をする。

【学習形態の工夫】

〈学習形態〉 課題別グループ

〈学び合いの視点〉

練習の行い方…正しい練習方法を行っているか。

技(場)ごとのポイント…動きのポイントを意識しているか。

安全…仲間が活動する場が安全か。

〈教える方法〉

学習資料のポイントと仲間の動きを見比べ、出来栄を伝える。

ぶとよいことを伝える。

- 自分の動きを客観的に見たいと思う児童がいたときには、教師がギガタブで撮影し、映像で振り返りができるようにする。
- アドバイスをすることに自信をもてない児童がいたときには、教師と視点を振り返ったり、学習資料で技のポイントを確認したりして、自信をもってアドバイスができるようにする。
- 必要に応じて、易しい場で練習することを認め、より安定した動作ができるようにする。
- 技を安定させたり、より大きくしたりしている児童を称賛し、意欲を高める。

○技のポイントを理解することができるようにするために教師の見本と学習資料を照らし合わせて確認するように声をかける。

○易しい場での動きのイメージをつかめるように、教師が手本を見せる。

○はね跳びの経験がない児童が多いため、3人組での首はね跳びの場は全員が経験できるようにする。

○3人組での首はね跳びの場では、膝を伸ばして斜め前方に足を振り出し、はねることを意識するように声をかける。

○ステージからの首はね跳びの場では、首の後ろが着いたタイミングではねる動作をするように助言する。

○体が反れない児童には、目線に注目させ、斜め後ろを見て体を反らすように助言する。

○段差連結跳び箱の場では、腰を高く引き上げることを意識するように助言する。

○同じ課題をもつ仲間3～4人ですばやくグループを作り、練習の場に行くように指示する。

○学習資料のポイントをもとにして、仲間の出来栄を伝え合うように指導する。

○自分の力に合った適切な場を選ぶことのできていない児童がいたときには、教師と資料を確認し、適切な場を見つげられるようにする。

○試しの場での挑戦を不安に感じている児童がいるときには、補助に入ったり、横にマットを敷いたりして安心して挑戦できるようにする。

	<p>9 学習のまとめをする。</p> <p>10 整理運動をして後片付けをする。</p>	<p>○首はね跳びができる児童には、試しの場でかかえ込み跳びを「安定した」「大きくした」動作で跳べるように挑戦するように声をかける。</p> <p>○見付けたコツを全体で共有する。</p> <p>○他の児童の参考になるように、よい動きをしていた児童を取り上げる、紹介をする。</p> <p>◇運動に積極的に取り組もうとしている。 【態度①】</p> <p>○学習カードに振り返りと次回の目標を書かせる。</p> <p>○怪我がないか確認ながら整理運動を行う。</p> <p>○協力して後片付けをするように声をかける。</p>
<p>なか③ (第4〜7時)</p>	<p>1 学習の場づくりをする。</p> <p>2 準備運動をする。</p> <p>3 ストレッチをする。</p> <p>4 主運動につながる運動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うさぎ跳び</li> <li>・腰上げ</li> <li>・跳び乗り→跳び降り</li> </ul> <p>5 めあてを確認する。</p>	<p>○役割分担をもとに、協力して準備するように促す。</p> <p>○跳び箱運動でよく使う部分を意識して行うように促す。</p> <p>○主運動につながる運動では、動きのポイントを意識して活動するように促す。</p>
<p><b>学習活動① できる技を安定させたり、大きくしたりして楽しもう。</b></p>		
<p>なか③ (第4〜7時)</p>	<p>6 自分に合った場で活動する。</p> <p>〈予想されるめあての例〉</p> <p>○開脚跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・膝を曲げて、柔らかく着地ができるようにしよう。</li> <li>・力強く踏切って、腰を肩の高さまで上げよう。</li> </ul> <p>○かかえ込み跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・力強く踏み切って、膝を胸に引き付けることを意識して跳ぼう。</li> <li>・着手で突き放して、上体を起こせるようにしよう。</li> </ul> <p>○台上前転・膝伸台上前転</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・力強く踏み切って、腰を高く上げよう。</li> <li>・膝を伸ばした状態で、まっすぐ回れるようにしよう。</li> <li>・膝を曲げて、柔らかく着地ができるようにしよう。</li> </ul> <p>○首はね跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・力強く踏み切って、勢いよく足が振り出せるようにしよう。</li> <li>・膝を曲げて、柔らかく着地ができるようにしよう。</li> </ul>	<p>○同じ場に集まった仲間と役割分担をして、学びあうように声をかける。</p> <p>○観察者に対して、見るところ(視点)を意識して、友達の動きを観察しアドバイスするように促す。</p> <p>○観察者がアドバイスをした後、場の安全を確認してから次跳ぶ人に合図を出すことを確認する。</p> <p>○跳ぶ人が視点以外の動きを見てもらいたいときには、観察者に見てほしい部分を伝えてから跳ぶとよいことを伝える。</p> <p>○自分の動きを客観的に見たいと思う児童がいたときには、教師がギガタブで撮影し、映像で振り返りができるようにする。</p> <p>○アドバイスをすることに自信をもてない児童がいたときには、教師と視点を振り返ったり、学習資料で技のポイントを確認したりして、自信をもってアドバイスができるようにする。</p> <p>○必要に応じて、易しい場で練習することを認め、より安定した動作ができるようにする。</p> <p>○技を安定させたり、より大きくしたりしている児童を称賛し、意欲を高める。</p>

◇自己の能力に適した切り返し系や回転系の技で安定して跳ぶことができる。 【知・技②】

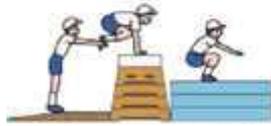
7 めあてを確認し、場づくりをする。

学習活動② もう少し練習すればできる技に挑戦して楽しもう。

<予想されるめあての例>

○かかえ込み跳び

- ・力強く踏み切って腰を引き上げ、足を胸に引き付けられるように、着地位置を柔らかくした場で練習しよう。



○膝伸台上前転

- ・ステージへの跳び乗りの場で、腰を高く引き上げられるようにしよう。



○首はね跳び

- ・3人組での跳ね起きの場で跳ねる感覚をつかもう。



○頭はね跳び

- ・ステージからはね下りをして、足を振るタイミングをつかもう。



7 学習のまとめをする。

○かかえ込みとびが苦手な児童に対しては、低い跳び箱で手を着きやすくしたり、跳び越しやすくしたり、ステージに跳び乗ったりするよう助言することで、踏み切りから着地までの動きが身に付くようにする。

○伸膝台上前転が苦手な児童に対しては、水深調節台や低い跳び箱で腰を上げたり速さのある前転をしたりするよう助言することで、腰を伸ばして回転する動きが身に付くようにする。

○首はね跳びが苦手な児童には、マットやステージを使ってブリッジをしたり、段差や補助を利用して首はね起きを行ったりするよう助言することで、体を反らしてはねたり、手で押したりする動きが身に付くようにする。

○頭はね跳びが苦手な児童には、マットやステージを使ってブリッジをしたり、段差や補助を利用してはね起きを行ったりするよう助言することで体を反らしてはねたり、手で押したりする動きが身に付くようにする。

○自分の動きを確認したい児童がいた場合には、教師がその児童の動きを撮影し確認することができるようにする。

○必要に応じて、児童同士のギガタブでの撮影を認め、学び合いに生かせるようにする。

◇自己の能力に適した課題の解決の仕方を選んでいる。 【思・判・表①】

◇仲間の動きを観察し、よかったところを他者に伝えている。 【思・判・表②】

○見付けたこつやよい動きをしていた児童を全体で共有する。

◇仲間の考えや取組を認めようとしている。 【態度③】

○めあてに対して振り返りをするように声をかける。

	8 整理運動をして、後片付けを行う。	<p>○振り返りをもとに、次回のめあてを立てるように促す。</p> <p>○めあてを書くことに自信がない児童には、学習資料をもとにして活動の場や意識することを確認できるようにする。</p> <p>○怪我がないか確認ながら整理運動を行う。</p> <p>○協力して後片付けを行うように声をかける。</p>
まとめ	<p><b>【学習のまとめ】</b></p> <p>○跳び箱運動の行い方について、言ったり書いたりすることができたか。</p> <p>○自己の能力に適した切り返し系や回転系の技で安定して跳ぶことができたか。</p> <p>○自己の能力に適した課題の解決の仕方を選択することができたか。</p> <p>○仲間の動きを観察し、良かったところを他者に伝えることができたか。</p> <p>○運動に積極的に取り組もうとしたか。</p> <p>○約束を守り助け合って運動しようとしたか。</p> <p>○仲間の考えや取組を認めようとしたか。</p> <p>○場や用具の安全に気を配ることができたか。</p>	